

琉球大学学術リポジトリ

琉球列島周辺に生息するソデフリダコOctopus laqueusおよびウデナガカクレダコOctopus(Abdopus)aculeatusの活動パターン

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柳澤, 涼子, 金子, 奈都美, 池田, 譲, Ikeda, Yuzuru メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/804 |

PS-10 琉球列島周辺に生息するソデフリダコ *Octopus laqueus*
およびウデナガカクレダコ *Octopus (Abdopus) aculeatus* の活動パターン

柳澤 涼子¹⁾・金子 奈都美²⁾・池田 譲¹⁾

¹⁾琉球大学理学部,

²⁾琉球大学大学院理工学研究科

本研究は熱帯性タコ類の昼夜における活動パターンを室内実験および野外調査から明らかにすることを目的とし、琉球列島の潮間帯に生息するソデフリダコ *Octopus laqueus* およびウデナガカクレダコ *O. (Abdopus) aculeatus* を対象に次の2項目を実施した。1) 明暗周期下および恒常条件下におけるタコ類2種の行動観察。2) 西表島沿岸におけるタコ類2種の野外観察。

ソデフリダコは、明暗周期下実験において昼夜の活動量の平均が昼間 5–43 分間、夜間 208–339 分間であり、ほぼ暗期のみ活動し、明期になると直ちに巣の中へ入るという明瞭な昼夜の活動パターンを示した。さらに、光の変化を排除した恒常条件下実験においても、昼夜に対応した活動性がある程度維持されていた。しかし、活動時間帯の開始、終了時期と昼夜との対応は不明瞭になった。一方、ウデナガカクレダコは、明暗周期下実験において活動量の平均が昼間 49–99 分間、夜間 138–185 分間と夜間に多くの活動量を示したが、ソデフリダコに比べて昼夜に対応した活動パターンは不明瞭であり、個体によっては活動の多くなる時間帯と少ない時間帯の境が曖昧であった。また、西表島沿岸における野外調査では、ウデナガカクレダコが昼夜にわたり採集され、その採集数にも昼夜間で顕著な相違は見られず、室内実験の結果に対応していた。

これらの結果より、熱帯海域に生息するソデフリダコおよびウデナガカクレダコの活動には周期性が見られ、前者ではそれは光を同調因子とした明瞭なものであること。後者では、周期性に個体差が見られることなどが明らかとなった。